# 形象埴輪の造形

西田　和浩

【講座の概要】

## １．はじめに

古墳の墳頂や造り出し、または墳丘周囲に立て並べられる土製品を埴輪と呼ぶ。埴輪は円筒埴輪（朝顔形埴輪含む）と形象埴輪に大別され、このうち形象埴輪は人やモノをあらわしたものをさす。古墳から出土する埴輪の多くは円筒埴輪が大半を占め、形象埴輪は少ない。破片を接合しても全体が復元できる例は多くない。

## ２．形象埴輪の種類・技術的な要素

形象埴輪は、基本的に「家形埴輪」「器材埴輪」「動物埴輪」「人物埴輪」の 4 種に分類される。前期中葉（4 世紀中ごろ）から家形埴輪が墳頂部に出現し、次に盾・甲冑・蓋などの器材埴輪が家形埴輪を取り囲むように配置される。やがて、前期末頃に造り出しや島状遺構上にも器材埴輪が配置される。動物埴輪や人物埴輪は、中期中葉（5 世紀中頃）までに登場し、周濠の堤などの墳丘外区に配置されるようになる。

形象埴輪の造形については３つの要素【①円筒整形と粘土板整形、②分離整形、③線刻・彩色】が挙げられる。これらの要素が組み合わされ、形象埴輪が作られる。

## ３．形象埴輪の造形　－蓋形埴輪・靫形埴輪について－

今回は蓋形埴輪と靫形埴輪における造形の変化についてとりあげる。蓋形埴輪は貴人に差しむける日傘を模した埴輪である。立飾と笠部にみられる造形の変化について解説する。靫形埴輪は矢を入れる容器「靫」をモデルにした埴輪である。矢筒部と背後の半円筒部の接合方法や鏃の表現方法の変化について解説する。また金蔵山古墳や造山古墳群から出土した蓋形埴輪・靫形埴輪の特徴について考える。

## ４．おわりに

蓋形埴輪も靫形埴輪も、出現期は、実物を写実的に模倣するが、時期が下ると小型化し表現も省略されるようになる。畿内と吉備でみられる造形の変化は連動しており、畿内からの埴輪造形の影響がみられる。このことから造山古墳群の埴輪作りに、畿内から一定の関与があったことが伺える。一方、靫形埴輪にみられる直弧文の描き方は特徴的で、基本構造は畿内と共有しつつも、細部に独自性が表れている。

【参考文献】

高橋克壽 1996『埴輪の世紀』講談社
高橋克壽 2006「埴輪　－場から群像に迫る－」『列島の古代史５　専門技能と技術』岩波書店
塚田良道 2015『埴輪を知ると古代日本人が見えてくる』洋泉社
松木武彦 1994「吉備の蓋形埴輪　－器財埴輪の地域性に関する予察－」『古代吉備』第 16 集
若狭　徹 2013『古墳時代ガイドブック』新泉社
和田一之輔 2011「形象埴輪の編年と画期」『古墳時代の考古学１　古墳時代史の枠組み』同成社

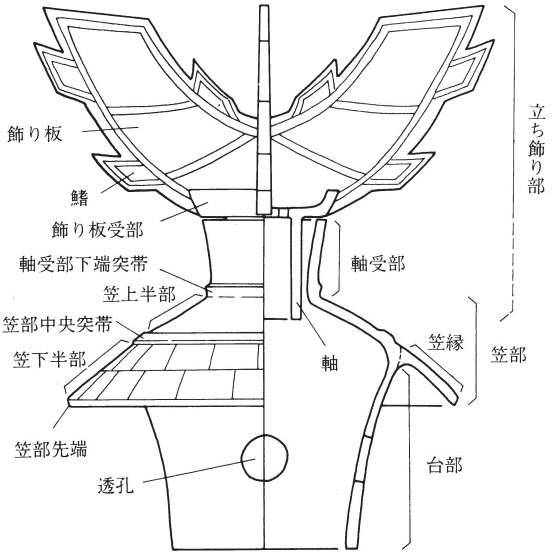



図１　蓋形埴輪の各部名称

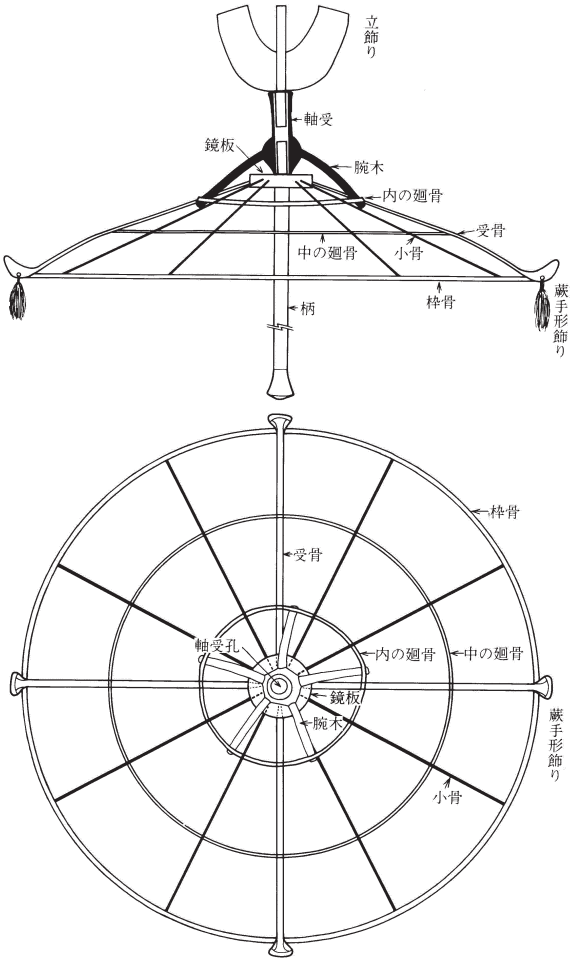



図２　蓋の復元模式図

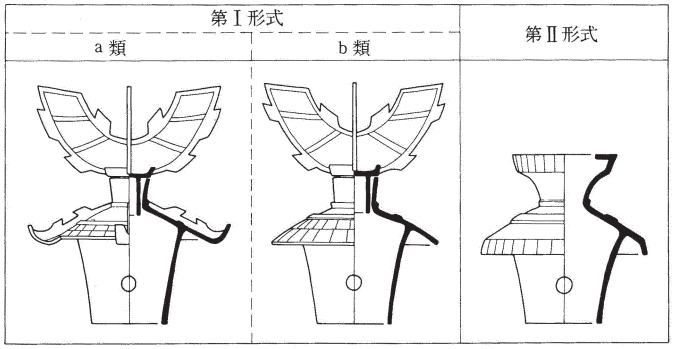



図３　蓋形埴輪の分類

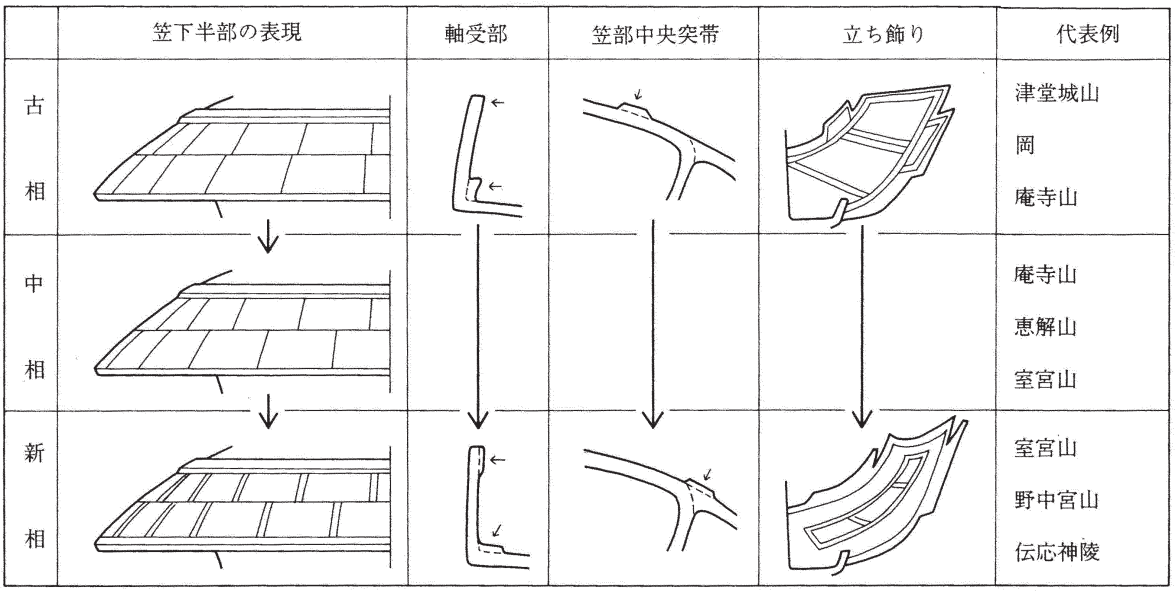



図４　蓋形埴輪各部の変化（第Ⅰ形式ｂ類：津堂城山タイプ）

**蓋形埴輪は、肋木（ろくぼく）の有無で大別され、さらに笠部・立ち飾りの形態で新古がわかる。**

笠下半部：貼布（板葺）を表す上下２段の沈線が同じ位置（古）→互い違い（中）→沈線が２条（新）

軸受部の突帯：下端のみ（古）→上端と笠上端部（新）

笠部中央突帯の位置：笠部と台部の接点より上位（古）→接点付近（新）

立ち飾り：内部を２条の縁取り線で装飾。上辺は水平に近い（古）→上へ伸び、上辺が反る。線刻が内へ移動し、省略される（新）

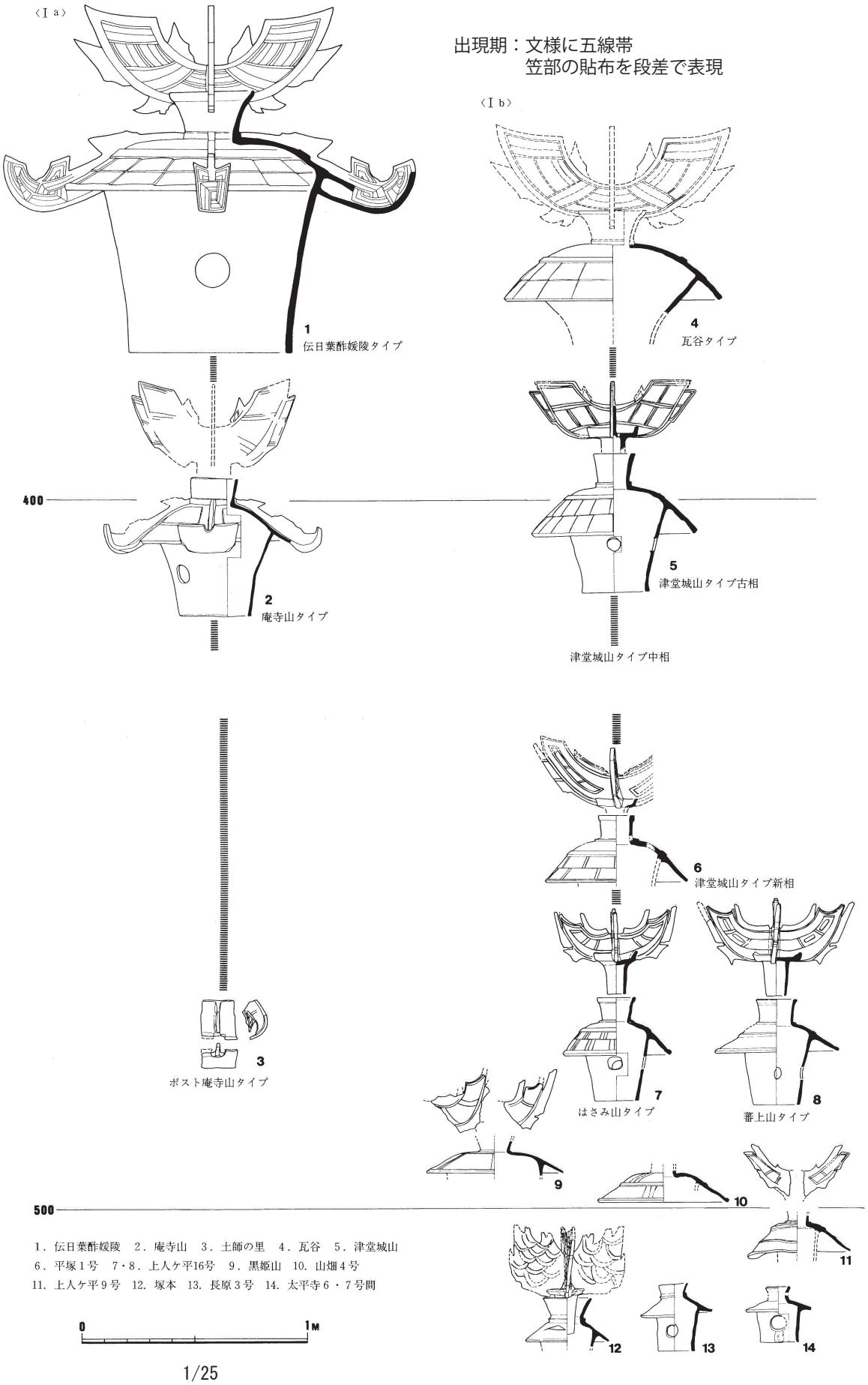
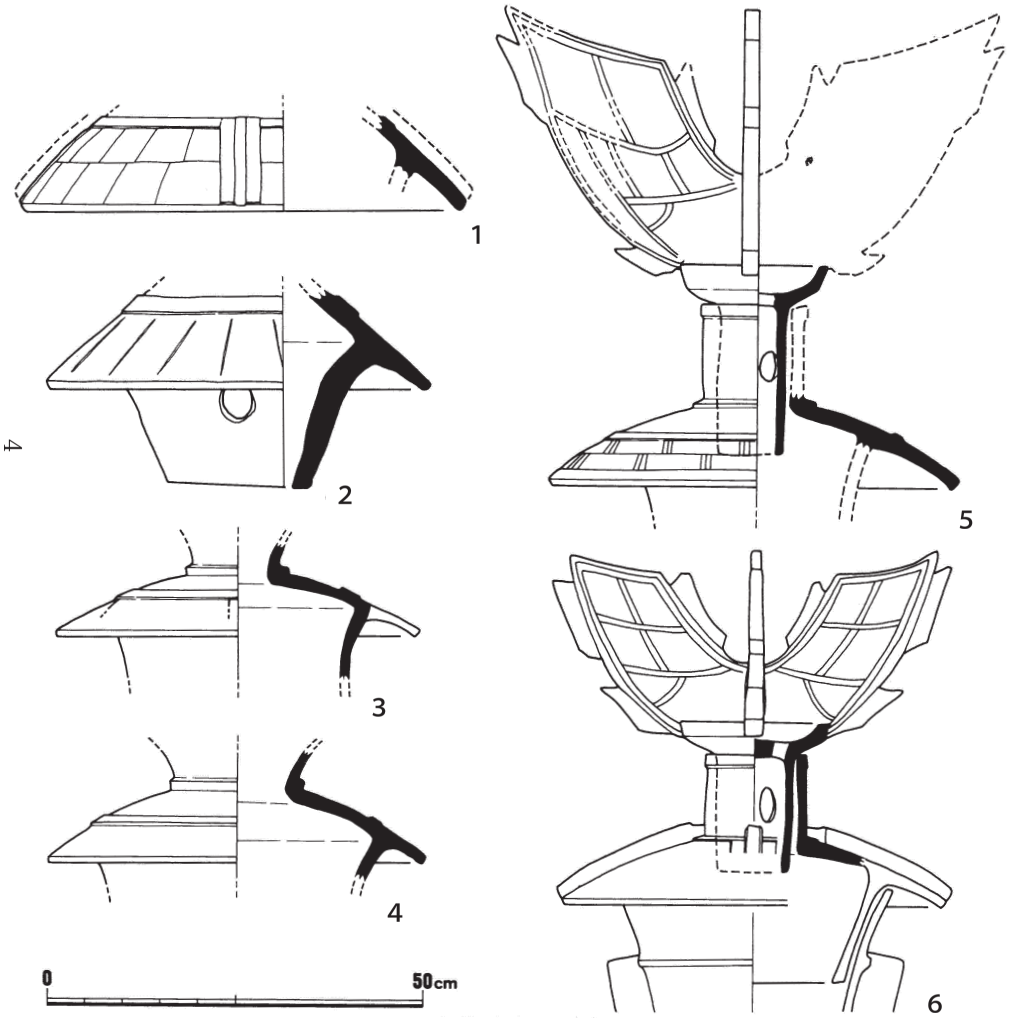
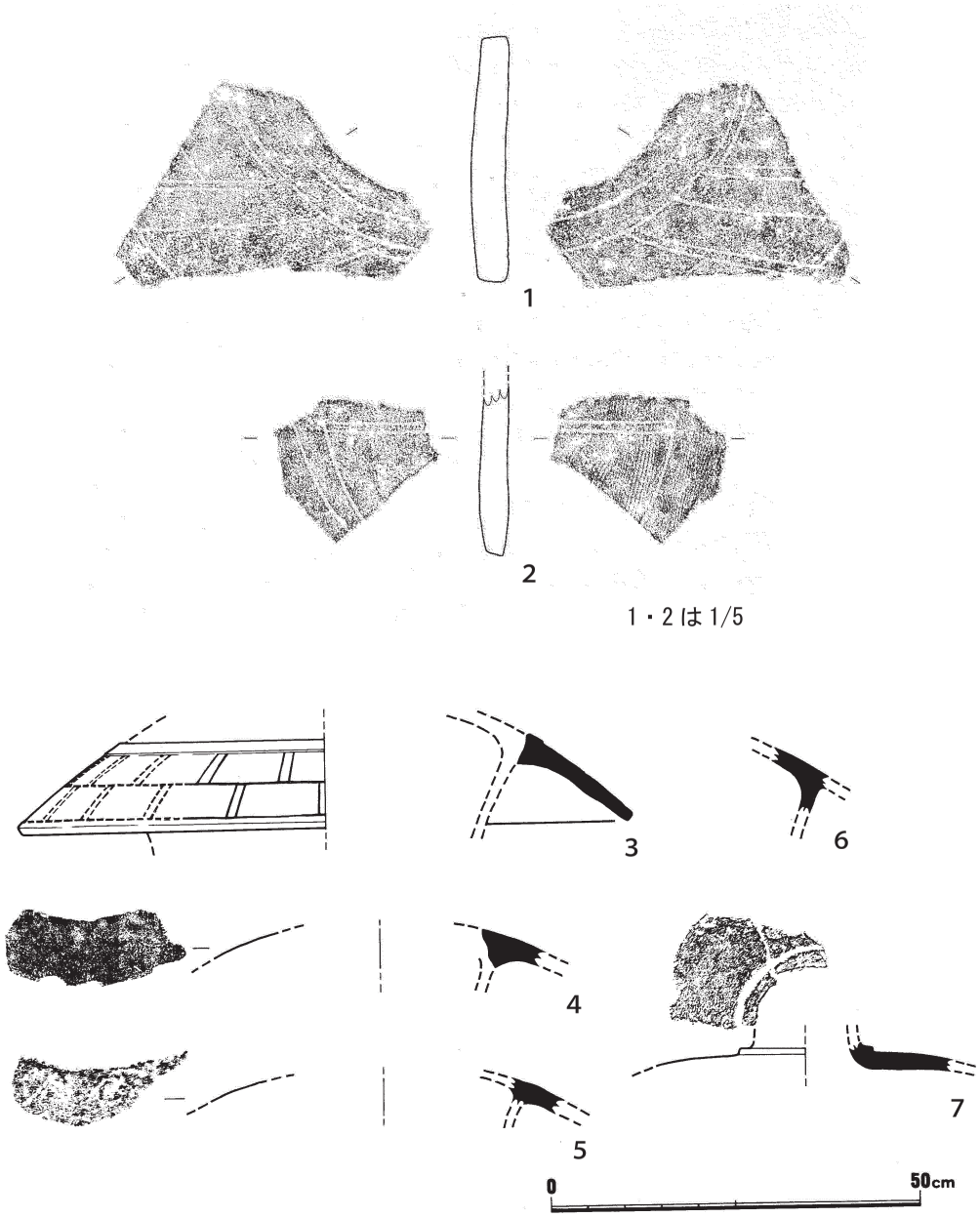



図5　蓋形埴輪の造形の変化




1/10

図６　金蔵山古墳出土の蓋形埴輪




1/10

図７造山古墳ほか出土の蓋形埴輪

※5: 宿寺山、6･7：作山　他は造山

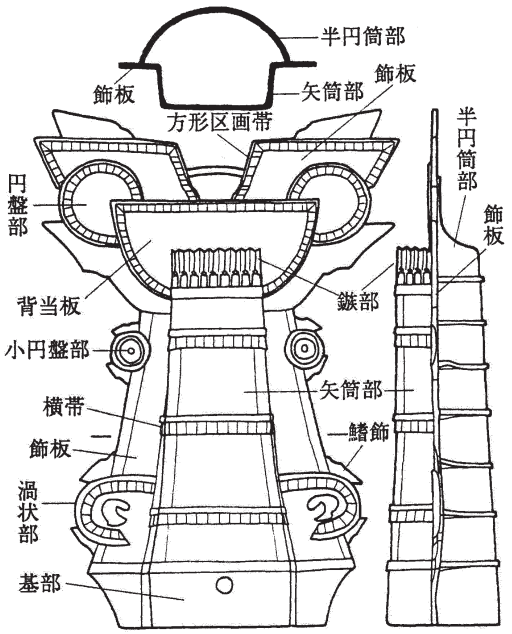
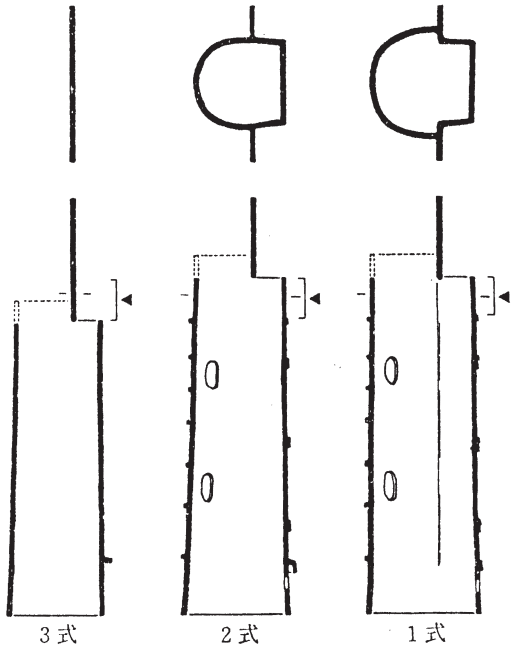
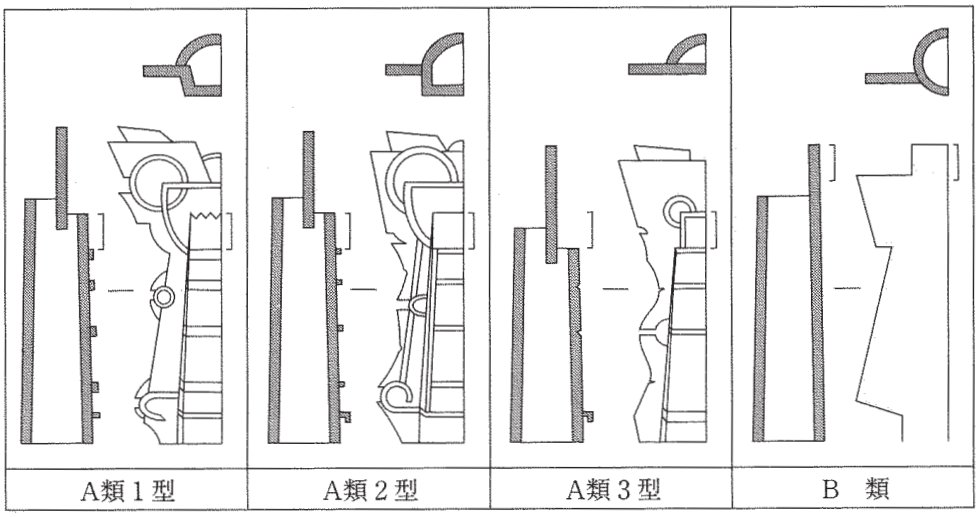



図８　靫形埴輪の各部名称




1：高橋分類




2：和田分類

図９　靫形埴輪の分類

**靫形埴輪の造形の変化**

矢筒部と半円筒部の接合部分の形態、鏃の表現方法で分類される

Ａ類１型：半円筒部と矢筒部を別々に製作する。半円筒部のほうが矢筒部よりも幅広い。五線帯など丁寧な直弧文を描く。矢筒部上端に鏃を立体的に表現する。粘土貼り付けによる立体表現あり。

Ａ類２型：半円筒部と矢筒部は同じ幅で、一連に製作される。鏃は矢筒部上端に表現されるが写実性は１型より下がる。粘土貼り付けによる立体表現あり。

Ａ類３型：飾板に鏃を描く（線刻又は粘土貼り付け）。矢筒部と半円筒部の接合は２型と同じ。

Ｂ類：矢筒部も円筒形になる。左右の飾り板が着物の袖のように張り出し、奴凧形となる。

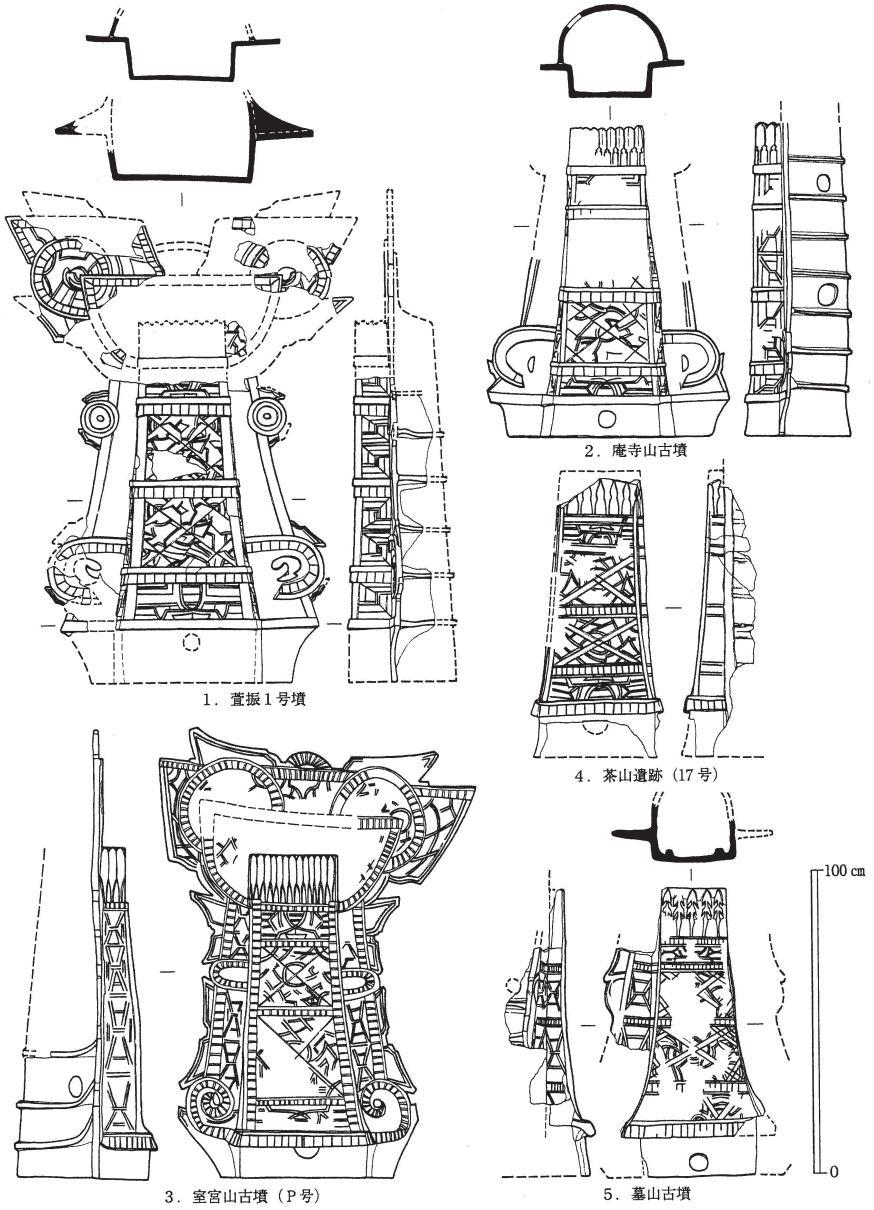



図 10　靫形埴輪Ａ類１型・２型（1/25）

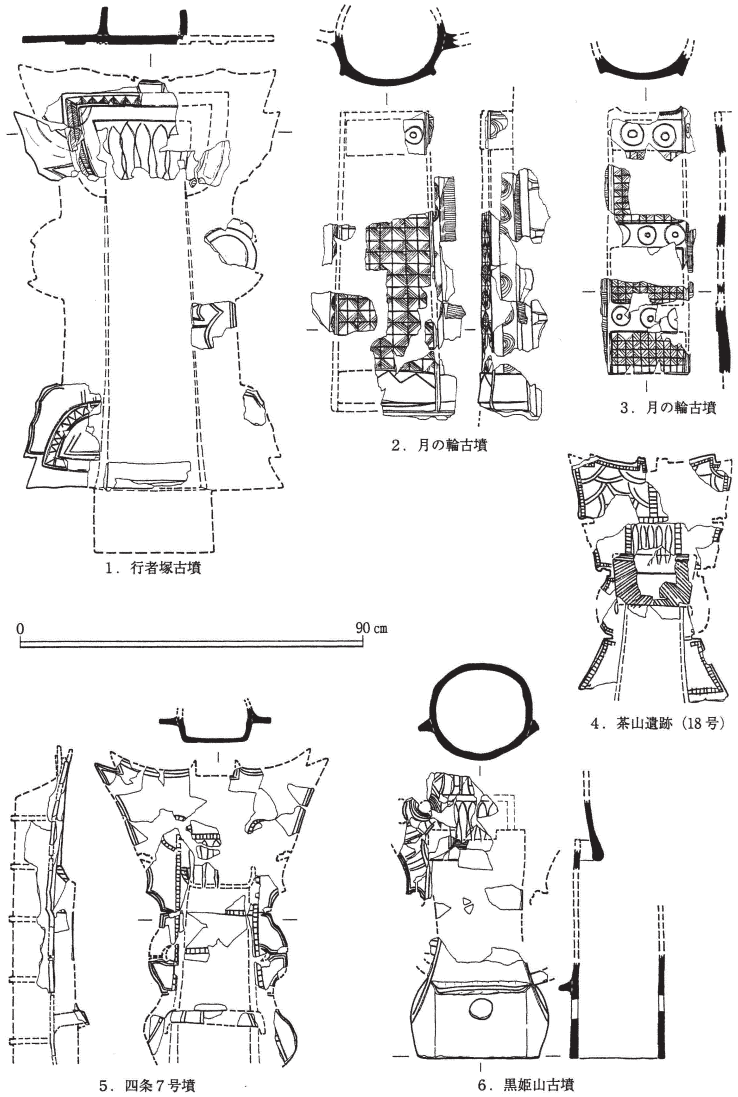



図 12　靫形埴輪の諸例（２）

図 11　靫形埴輪Ａ類３型（1/15）

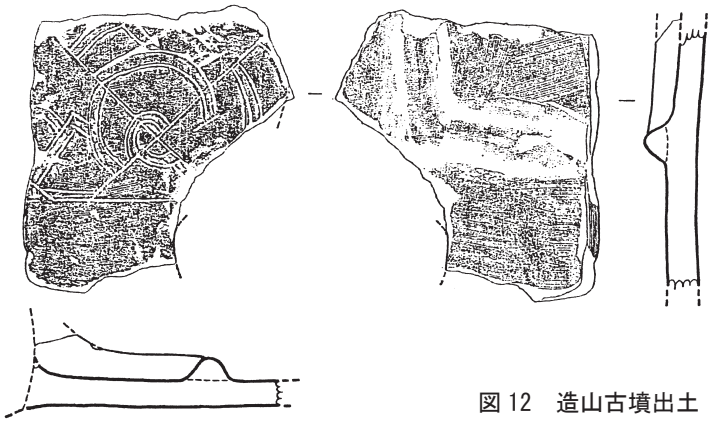


図 12　造山古墳出土　靫形埴輪（1/5）

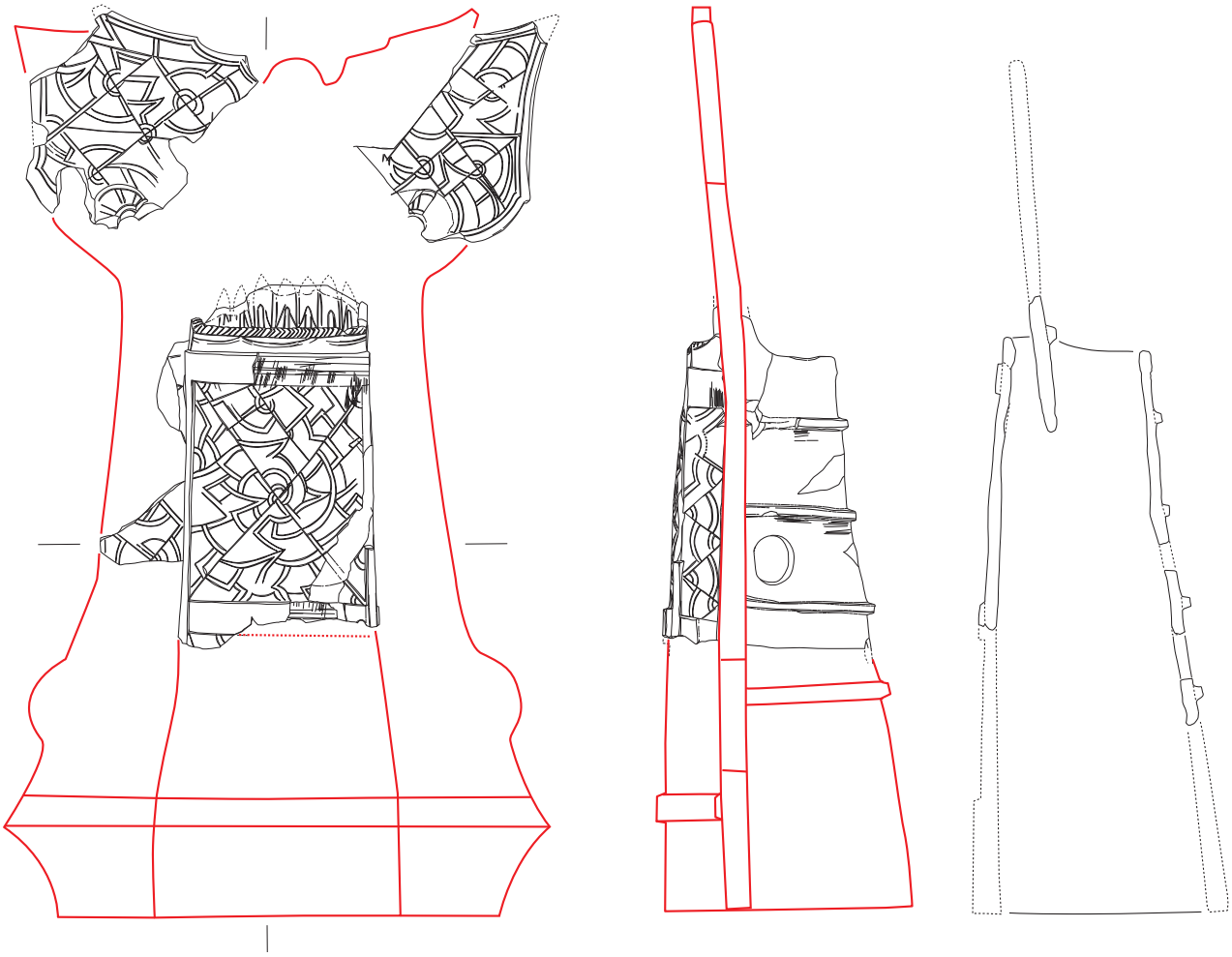


図 13　千足古墳出土　靫形埴輪（1/10）

図出典

図１･3 ～ 6、図７の３～７：松木 1994　図２：浅岡俊夫 1990「きぬがさの検討ー出土木製笠骨をとおしてー」『今里幾次先生古希記念播磨考古学論叢』今里幾次先生古希記念論文集刊行会　図７の 1･ ２：加藤一郎 2015「附章２　１宮内庁書陵部所蔵の千足古墳関係出土品報告　Ⅳ造山古墳　埴輪」『千足古墳　ー第１～第４次発掘調査報告書』岡山市教育委員会　図９の１：高橋克壽 1988「器材埴輪の編年と古墳祭祀」『史林』第 71 巻第２号　図９の２：和田 2011　図 10・11：和田一之輔 2013「靫形埴輪の編年と系統」『文化財の新地平』奈良文化財研究所　図 12：春成秀爾 1983「造山・作山古墳とその周辺」『岡山の歴史と文化』福武書店